

Shin Club 39

楳辰 通信 Vol.39
2003年6月
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-24-4-7f
Phone: 03-3486-1570 Fax: 03-3486-1450
編集発行人: 松村典子

今月のトーク 「日本の暮らしを取り戻す」

今月ご紹介するのは、以前弊社で施工した集合住宅「BALCON (バルコン)」の設計者木下道郎氏が、「中間領域」という新しいテーマに取り組んだ面白い集合住宅です。「BALCON」では、エレベーターから直接1フロア1戸の賃貸住宅にアクセスすることで、セキュリティ面に配慮し、またエレベーターを降りると眼前に広がる木のバルコニーが玄関も兼ねているというアイデアが、斬新でした。「BALCON」の思想を更に推し進めたともいえる、今回のこのRC造5階建ての建物は11戸のうち10戸が13坪前後の賃貸住宅です。全体は、バルコニーが付いているA棟、バルコニーがないB棟、別の入口より階段からアクセスするC棟と、3つのユニットからなっています。それぞれデッキテラスやバルコニーなどを經由して中に入ると、そこに玄関はなく、いきなり白いタイルの領域。それは昔の日本でいえば、「濡れ縁」(雨戸の外に張り出した縁側)のようなあいま領域です。そこに、キッチンや、バスルームなど水廻りの施設を配し、奥のフローリング部分とガラスの引戸で仕切ることにより、狭い空間を広く見せています。

木下「このあいま領域をどのように利用するかは、住まう人の気分次第。バスルームもキッチンも透明だと広く感じる一方、同居人の視線を遮れないので心理的に不安かもしれません。でもあえて、賃貸で個人、あるいはカップルで住むのなら、この機能にわざわざスペースを広く取る必要はないでしょう。外部からの視線に対しては、黒に近い暗褐色の木製ルーバーを目隠しにしました。タイルを白にしたのも成功したと思います。テラコッタだと違った感じだったでしょうが、新しい居住者がどのように使うのか、自分の実験に付き合っていたら感じています。」

この「二軒家アパートメント」という名前にも、木下氏のこだわりが感じられます。都心は今、どんどん住居表示が変わっています。二軒家とは、昔この周辺に、地主さんが二軒しかなかったという名残だそうです。今でも町内会の名前として、その名が残されています。



木下「最近の集合住宅は、横文字が多いでしょう。私の要望を聞いていただけてうれしいですよ。」
「日本人は、元来生活空間の使い方がうまいはず。自然とうまく付き合せて、風通しの良い空間に住んでいました。それが、都市化、近代化の波をうけて、否応なしに西洋化させられ、妙にセキュリティを意識した空間ばかりになってしまった。でも欧米人は靴をはいて室内に入るけれど、その点は受け入れられていないでしょう。ダイニング、リビングなどの機能的な空間を増やすばかりだったけれど、追従するばかりではないですね。日本のアパートメントと西洋のアパートメントはそもそも広さが違います。空間の知恵を取り戻す工夫を、建築家側から手助けしていきたいですね。」

<ペントハウスについて>
この建物の11番目の住宅は、セカンドハウスの機能を持ったペントハウスです。ここは下の階とはデザインを変えています。4階の階段を上がると、屋上庭園が2つ。新宿副都心の高層ビルが一望できる抜群の景色です。この屋上庭園を通してテラス上部の空中廊下を経て、上階から室内へと入ります。テラスには、パーティ用にホワイトコンクリートのカウンターが内部から突き出しており、反対側のガラス張りの空間にヒノキの浴槽が置かれています。エントランスから、内部の階段を下りると、広々とした吹き抜けのリビング。このような非日常の用途の中から、普遍性のあるものが生まれてくる場合もあると木下氏は考えます。

木下「人間をたとえば、40代男だったら給与所得者で配偶者がいて子供が二人いて、という風にモデル化することで、nDKという画一的な空間ばかりが流通してきましたが、そこからこぼれ落ちてしまう人が今では少なからず存在する。夫婦の部屋とか子供部屋



全景：3つのユニットは、A棟とB棟の間はエレベーター、B棟とC棟の間は階段になっている。コンクリート打ち放しだが、ペントハウス部分には、ガルバリウム鋼板の外断熱を行っている。賃貸402号室のフローリング部分。右側の白い置家具の裏はキッチンと設備、右手奥にトイレ・バスルームがある。401号室の濡れ縁部分。手前のバルコニーとの間、奥のフローリングとの間にガラス引戸が設けられており、それぞれ、収納されるようになっている。バルコニーのないB棟と左側のエレベーターホール側のルーバー。103号のデッキガーデンと白いタイルの濡れ縁部分。ミニマルなキッチンの向こう側がバスルーム (撮影： 齋部功、編集部)

とか機能対応の個室を確保することにだけにこだわらず、もっと日本的なあいま空間に目を向けてもいいのではないのでしょうか。我々には土間があり、竈(へっつい)と呼ばれるかまどがあり、外部と内部がない混ざったセミパブリック、面白い空間があったんです。通りがかりの人も気軽に立ち寄れる空間、そんな感覚をとりも

どしたいですね。」
事務所も、新しくこの建物の一室に確保した木下氏に、お話を聞かせていただきました。
構造: RC造、地上5階 用途: 共同住宅
設計: 木下道郎/ワークショップ 構造: 構造計画プラスワン



屋上庭園。新宿副都心の夜景が楽しめる。ペントハウスのエントランスからの空中廊下。リビング。白い木が林立する構造物として作られた本棚。屋上庭園からエントランスへの橋の下はパーティスペースとしてのテラス。正面はガラス張りの浴室。ヒノキの風呂が設置されている。手前がキッチンから出ているホワイトコンクリートのテーブル。(撮影: 齋部功、編集部)

TOPICS

「メディカルスキャニングお茶の水 改修工事」 (5月12日) 千代田区

MRIを使った、最新の医療画像診断クリニック「メディカルスキャニングお茶の水」がこの度オープンしました。MRIは強い磁気を使った画像診断機器で、こちらでは一流の技師と専門医が検査診断にあたります。通常大病院では放射線科が担当画像診断に特化し、病院や診療所との連携を行うことで、患者の待ち時間を減らすことなどに役立ちます。人間ドックのような検診としての利用も好評。時間をとらず、しかも部位ごとに指定して30,000円からというのですから、忙しい現代人にはうってつけ。特に婦人科は女性にとっては門をくぐりにくい所。できることなら内診なしで病気を知りたいものです。検査後すぐに画像を見ながら説明を受けられるので便利です。「自分の体の情報は、自分が管理する。」患者自身に医療の選択肢がゆたねられている時代になっているのです。
改修設計: 泰地眞三仁
環境エネルギー建築(有)

ロビー:天井が高く、採光も良い。全体的にアースカラーでまとめ、リラックスできる雰囲気を作っている。カルテ棚とスタッフコーナー。フロントカウンター。エントランスのR壁はルナファーマー。質感がやさしい。ドイツ・シーメンス社のMRI装置。



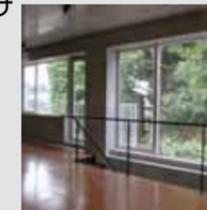
「上馬重層長屋 引渡し」 (5月14日) 世田谷区

全てタイプの異なるメゾネット4室。それぞれ、浴室の白いタイル張りをポイントに、配置されています。
構造: RC造 地上4階
用途: 長屋
設計: 佐藤万芳
(有)空間計画研究所



「レントハウス茂手木 引渡し」 (5月22日) 横浜市港北区

各戸異なったタイプのデザインマンションです。
構造: RC造
地上2階 地下1階
用途: 共同住宅
設計: 鈴木孝紀
(株)ハル建築研究所



「六本木FSビル 引渡し」 (6月2日) 港区

正面のステンレス階段、合わせガラスのリブがコンクリート打放しとマッチした店舗ビルです。
構造: RC造
地下1階 地上3階
用途: 店舗
設計: 白旗定幸
マナ建築設計室(有)



WHAT'S NEW ~ from this month's magazine ~

「pen with New Attitude」 No.107 2003.6/1号 (TBSブリタニカ)

今月のトークでご紹介した「二軒家アパートメント」が「建築家43人の集合住宅宣言！」というコーナーで取り上げられております。弊社の今後の施工予定物件もあり、読み応えある特集記事です。ぜひご覧ください。

